

「国際モダンホスピタルショウ2015」出展報告

とみなが ちえ
富永 智絵
NTT東日本

健康福祉社会の発展に寄与することを目的とした国内最大級の総合展示会「国際モダンホスピタルショウ2015」が2015年7月に東京ビッグサイトに開催され、NTTグループ各社による共同出展を行いました。ここではNTTグループブースでの展示について紹介します。

国際モダンホスピタルショウ2015

今回で42回目を迎える「国際モダンホスピタルショウ2015」が2015年7月15～17日の3日間、東京ビッグサイト東展示棟で開催されました。

本展示会は、病院をはじめ、保健・医療・福祉分野における質の向上、充実に役立つ機器、製品、システム、サービスなどを幅広く展示し、最新情報の発信および情報交流の場を提供することにより、健康福祉社会の発展に寄与することを目的としています。

会場は「医療機器・環境設備」「医療情報システム」「看護・介護・リハビリ」「健診・ヘルスケア」「施設運営サポート・サービス」の5つのゾーンで構成され、出展者は356社（海外からは7カ国18社）にのぼる国内最大級の規模です。主催者発表

では、来場者は昨年を上回る8万2149人と、盛況のうちに幕を閉じました。

NTTグループ展示

NTTグループは2005年よりグループ共同出展をしており、2015年で11回目となります。NTT東日本が事務局を担当し、出展する12社（表1）の総合力を結集し、NTTグループの医療・健康・福祉分野における取り組みを存分にアピールしました。

NTTグループは、医療情報システムゾーンの「医療連携・セキュリティ対策コーナー」にブースを構え、「つながる安心 いつまでも。どこまでも。」をテーマとしました（写真1）。ブース内は各社個別商材

の展示から、グループ一体での取り組みを印象付けられるよう、5つのエリアを展開しました（図、表2、写真2）。

■地域医療をつなぐ

地域医療連携をサポートする連携ソリューションとして、複数の医療機関の診療情報を時系列に連携させる「光タイムライン」（NTT東日本）のデモ環境を構築し、導入シーンとともに展示しました。このほか、連携で集約した診療情報の新たな利用シーンとしてクラウド型分析ツールの「Orion AI医療版」（iAnalysis）を紹介し、地域医療連携のその先を見据えた連携のあり方を紹介しました。

■地域包括ケアを支える

今回の展示会全体の大きなテーマともなっている住まい・医療・介

表1 出展一覧

NTT
NTT東日本
NTT西日本
NTTデータ
NTTデータアイ
NTTドコモ
NTTファイナンス
NTTアイティ
NTTエレクトロニクステクノ
大和電設工業（協和エクシオ）
サイバー・ラボ
iAnalysis



写真1 NTTグループブース外観

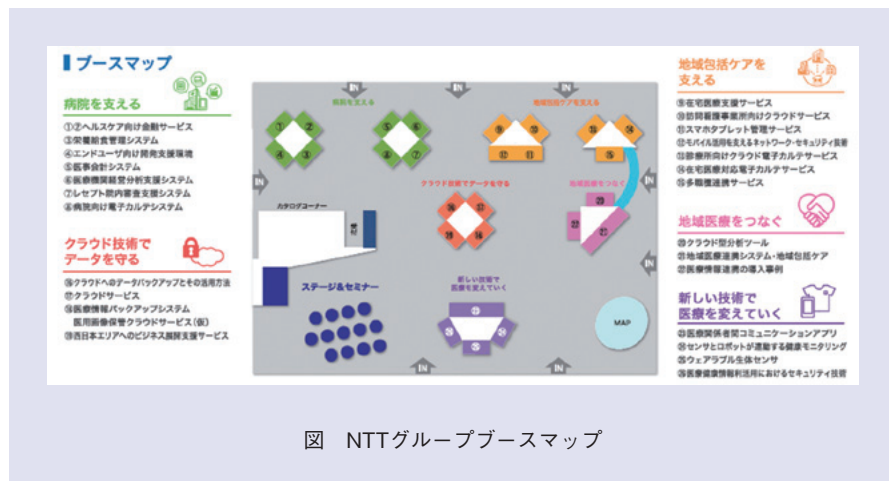


図 NTTグループブースマップ



写真2 NTTグループブースの様子

表2 出展商材一覧

	出展商品名	会社名
地域医療をつなぐ	光タイムライン	NTT東日本
	Orion AI 医療版	NTT東日本, iAnalysis
地域包括ケアを支える	多職種連携サービス	NTT東日本
	訪問看護事業所向けクラウドサービス (いきいきメディケアサポート)	NTT東日本
	Future Clinic 21ワーブ	NTT東日本
	ギガらくWi-Fi	NTT東日本
	スマートデバイスマネジメント	NTT東日本
病院を支える	在宅医療対応電子カルテ モバカルネット	NTTエレクトロニクステクノ
	ひかり在宅ケア (仮称)	NTT-アイティ
	かいかい博士NEO	NTTデータ
	レセプト博士NEO	NTTデータアイ
	ぶんせき博士	NTTデータアイ
	MI・RA・Is/PX	NTTデータ
	診療・介護報酬債権ファクタリング	NTTファイナンス
	各種リースサービス	NTTファイナンス
	栄養給食管理システム「ニュートリメイト」	大和電設工業 協和エクシオ
	Cyber Framework	サイバー・ラボ
クラウド技術でデータを守る	国立大学病院医療情報バックアップシステム	NTT東日本
	医用画像保管クラウドサービス	NTT東日本
	Bizひかりクラウド安心データバックアップ/安否確認サービス	NTT東日本
	医療情報データのクラウドへのバックアップと地域医療連携用プラットフォーム構築ソリューション	NTT西日本
新しい技術で医療を変えていく	センサとロボットが連動する健康モニタリング	NTT
	ウェアラブル生体センサ“hitoe”	NTT
	秘密計算・秘密分散・匿名化技術	NTT
	Join	NTTドコモ

護・予防・生活支援を包括的に提供する「地域包括ケアシステム」を、新たなテーマとして展示を行いました。それを実現するうえで、必要となる医師・看護師・介護ヘルパーなどの多職種の情報連携を円滑にする、「多職種連携サービス (仮称)」（NTT東日本）を中心に、在宅医療対応電子カルテシステム「movacal.net」（NTTエレクトロニクステクノ）などの展示を行い、今後の地域医療を支える技術として関心を多く集めていました。

■病院を支える

毎年好評を得ている展示として、病院経営をサポートする「レセプト博士NEO」（NTTデータアイ）や「診療・介護報酬債権ファクタリング」（NTTファイナンス）、診療業務の効率化を支援する病院向け電子カルテシステム「MI・RA・Is/PX」（NTTデータ）など、多種多様な商材を展示し、日常業務を下支えする取り組みを紹介しました。商材の展示は、医療機関の視点から導入シーンやメリットを訴求することで、実際の活用シーンがイメージしやすく、目的の商材について比較しやすい展示を行いました。

■クラウド技術でデータを守る

DRやBCP対策に向けた医療情報のクラウド利用として、「Bizひかりクラウド安心データバックアップ/安否確認サービス」（NTT東日本）

や「医療情報データのクラウドへのバックアップと地域医療連携用プラットフォーム構築ソリューション」(NTT西日本)など、災害時の診療継続を支える技術を紹介しました。期間中実施したアンケートにおいて、クラウドサービスへの問合せが多数あり、来場者の興味の大きさがうかがえました。

■新しい技術で医療を変えていく

今後の在宅医療・看護・介護支援において、利活用の期待が高まる「ウェアラブル生体センサ“hitoe”」(NTT)の常時モニタリングや、医療従事者間でのコミュニケーションアプリ「Join」(NTTドコモ)など、未来の医療健康サービスを新しい技術で変えていく試みを紹介しま

した。

このほか、高齢者の健康増進・未病対策として「センサとロボットが連動する健康モニタリング」(NTT)を、ロボットの実機を用いて来場者参加型の実演展示を行い、大きな注目を集めており、来場者の期待の高さが表れていました。

表3 セミナーの講演タイトルと講演者一覧

タイトル	講演者
BizひかりクラウドFuture Clinic 21ワープの活用事例	あいあいクリニック 院長 塚本 善峰 氏
ICT医療と通信技術 ～未来医療～	東京慈恵会医科大学 先端医療情報技術技術講座 高尾 洋之 氏
ビッグデータのビジネス活用から学ぶ医療分野でのデータ活用	iAnalysys合同会社 最高経営責任者 (CEO) 倉橋 一成 氏
診療の質向上に期待されるICTの役割	榊原記念病院 院長 友池 仁暢 氏
医療政策の今後の動向と地域医療ICT	有限監査法人トーマツ パブリックセクター部 ヘルスポリシー&ストラテジー マネージャー 鈴木 紀秀 氏
ICTを活用した在宅診療の地域包括ケアについて	えがおのおうちクリニック 院長 杉浦 立尚 氏
レセプト及びDPCデータと医療機関経営支援ソフトを活用した効果的運営策	ヒューマンメディカルケア株式会社顧問/メディカル・テン代表/京都聖母女学院短期大学 講師 宮坂 佳紀 氏
バーチャルプライベートサーバを用いた外部保存データによるサーバ復旧の検証	長崎みなとメディカルセンター 市民病院 放射線部 技師 時田 善博 氏
「訪問看護ステーションの業務課題を解決するクラウドシステム」～地域包括ケアシステムを支える訪問介護ステーションの業務をクラウドで支援します～	いきいきメディケアサポート株式会社 営業部長 添野 元秀 氏
認知症の包括的な医療・介護を支援する多職種連携情報ツールの開発と実用化への試み	NTT東日本関東病院 神経内科 部長 吉澤 利弘 氏
医療情報システム更改の取り組みについて	防衛医科大学校病院 医療情報部 副部長 脇坂 仁 氏
職員がいきいきはたらくようになる、ICTによる「はたらき方改革」	有限監査法人トーマツ パブリックセクター部 ヘルスポリシー&ストラテジー マネージャー 根本 大介 氏
「うたと音楽」ができること	株式会社第一興商 営業統括本部 エルダ―事業開発部 次長 雨宮 善行 氏
国立大学病院の災害対策医療情報遠隔地バックアップ事業の概要	東京大学 医学部付属病院企画情報運営部 教授 大江 和彦 氏
これからの訪問看護師に求められること	一般社団法人訪問看護支援協会 代表理事 高丸 慶 氏
高齢者住宅における地域包括ケアや健康寿命の延伸に向けた取り組みについて	東急イーライフデザイン 運営本部 運営サポート事業部 運営第一部 部長 田苗 創基 氏



写真3 東京大学 大江和彦 教授

ステージ&セミナー

NTTグループブースでは、ステージを活用して、さまざまなプレゼンテーション、セミナー、講演も実施しました。

オープニング講演をあいあいクリニック院長の塚本善峰先生より、「Bizひかりクラウド Future Clinic 21ワープの活用事例」について、展示とリンクしたかたちでお話をいただきました。また最終日は東京大学の大江和彦教授より、「全国立大病院の災害対策医療情報遠隔地バックアップ事業の概要」についてのご講演もあり、多くの来場者を引き付けることができました（写真3）。このほか、東京慈恵会医科大学の高尾洋之氏による「ICT医療と通信技術～未来医療～」や榊原記念病院の友池仁暢院長による「診療の質向上に期待されるICTの役割」をテーマに、エンディングには東急イーライフデザインの田苗創基氏による「高齢者住宅における地域包括ケアや健康寿命の延伸に向けた取り組みについて」をNTTグループに期待することを含めてご講演いただきました（写真4）。

国の医療政策から病院内の機関連業務システムまで、バラエティに富んだゲストにご講演いただくことで、他社ブースには真似のできないNTTグループならではのス

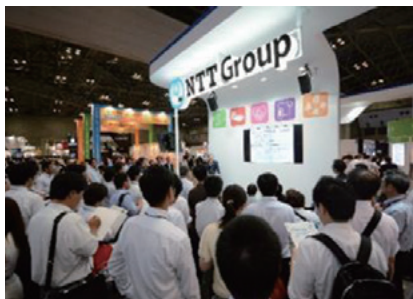


写真4 講演の様子

テージラインアップ（表3）を工夫しました。

グループ出展を終えて

アンケートについては、1738枚を回収（昨年比105%）することができました。NTTグループブースへの誘引や展示について成果があったといえます。

内容については、例年「NTTグループの医療への取り組みの認知度」といった広報的な効果測定の項目が多かったのですが、今回は出展各社で展示会後のアフターフォロー（資料送付、電話連絡、訪問提案）がより実施しやすいような設問やアンケート構成としました。

中でも高い関心を集めていたのが、地域医療連携、地域包括ケアサービス、クラウド商材でした。また新しい技術で医療を変えていくゾーンにおいても、実際の利用シーンを想起させる展示が功を奏し、提案活動へすぐに活用できる情報を収集することができました。

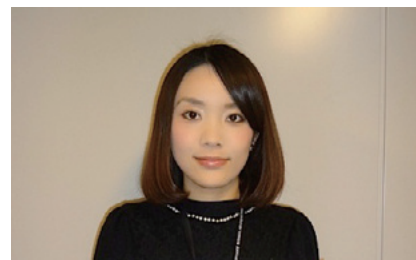
今後の展望

医療分野におけるICT活用は、基盤やシステムの組み合わせだけでは補いきれない、他業種・多職種にまたがるものになっています。今回、地域包括ケアを支えるゾーンで紹介



写真5 グループ各社メンバー

した商材や地域医療をつなぐゾーンでの事例紹介では、医療系ベンダをはじめ、多くの企業と積極的に協業や連携をしてきた経験が大いに活かされていることから、より一層NTTグループの連携の重要性を実感しました。今後も、NTTグループ（医療）連絡会を継続開催し、情報共有や提案活動における協力体制の構築など、グループの総合力をより発揮できるよう、連携強化に努めていきます（写真5）。



富永 智絵

医療・介護分野の地域連携をICTでサポートすることに寄与できるよう、今後ともNTTグループで連携し、グループ全体の総合力を活かしたトータル提案を目指していきます。

◆問い合わせ先

NTT東日本
ビジネス&オフィス営業推進本部
ビジネス営業部
医療・ヘルスケア事業推進室
TEL 03-6803-9004
FAX 03-5781-5313